

公園遊具・物的ハザードチェックリスト

令和 年 月 日

公園名	公園	実施年月日	令和 年 月 日()
所属団体名		実施者氏名	
責任者氏名			

遊具のチェック (○・△・×の表記を △・×の時はコメント欄に記載してください。)

診断区分	物的ハザード診断										
NO.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
遊具設備 チェック内容	遊具の下や周りにガラスや石などはないか。また、障害物はないか。	遊具に突起や引っ掛かりがある。塗膜・鍍金の剥がれを含む	顔・手指・足等が挟みこまれるような箇所がある	遊具の基礎が露出している	転落の恐れのある面が固くないか。石や金属、木の根がある	遊具の周囲・上空1.8m以内に樹木の枝など危険なものがある	安全柵の中に自転車などの危険物の持ち込みがある	着地部や周辺に金属・ガラス・木の根・大きな凸凹がある	ロープや針金・金属・ガラス・強化樹脂等が放置されている		
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											

コメント記載 (気付いた事など)

公園遊具・物的ハザードチェックリスト

遊具の点検におけるハザード各項目における視点は次の通りです。

遊具のチェック（○・△・×の表記を △・×の時はコメント欄に記載してください。

診断区分	物的ハザード診断										
NO.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
遊具設備 チェック内容	遊具の下や周りにガラスや石などはなにか。また、障害物はないか。	遊具に突起や引っ掛かりがある。塗膜・鍍金の剥がれを含む	顔・手指・足等が挟みこまれるような箇所がある	遊具の基礎が露出している	転落の恐れのある面が固くないか。石や金属、木の根がある	遊具の周囲・上空1.8m以内に樹木の枝など危険なものがある	安全柵の中に自転車などの危険物の持ち込みがある	着地部や周辺に金属・ガラス・木の根・大きな凸凹がある	ロープや針金・金属・ガラス・強化樹脂等が放置されている		

1. 砂場を含んで遊具安全領域(遊具の周囲の概念として遊具外形から1.8mの範囲)に金属・ガラス・石・木の根・硬い着地部及び大きな凸凹などの障害物存在をチェックします。
2. 遊具に洋服やパーカーの頭巾部、ひもなどが引っかかる恐れのある突起・ボルト等の飛び出し及び塗膜、メッキの剥がれ等をチェックします。
特に歩行面から高さ1.5m以内の障害物は引っかかり・頭部・目などの打撲の危険が高く注意してチェックします。
3. ロープ梯子への頭部引っかかり・狭い隙間や8～25mmの穴への指挿入による落下等は大きな事故につながります。
4. 遊具の基礎が露出しているとつまづき、頭部や身体の打撲及び落下時の重大事故につながります。地面から露出している基礎は特に注意が必要です。また、砂場や雑草の中に隠れているものは「危険の予知」ができない為、注意深くチェックします。
5. 遊具からの転落による身体への打撃時重大事故を避けるため、地面の硬さ、石や金属、木の根、ガラス、硬化樹脂など危険物をチェックします。
6. 遊具周囲・上空1.8mの範囲は、安全領域であり樹木などがあってはいけません。子どもの体が当たったり手を伸ばし触ろうとして落下したり、また枯れ枝の落下事故等の要因となります。
7. ブランコには周囲に安全柵(境界柵)があり不用意な人の侵入による接触事故や、自転車等危険物の持ち込みなどをチェックします。
8. 遊具の着地部には安全領域でなくてはいけません。周囲(遊具外形から1.8m以内)に危険物があってはいけません。
9. 遊び場に縄跳びの縄やロープ・ひも、針金などの放置は子どもの遊び道具となり危険です。

その他公園内に金属など硬い材料で作られたグラウンドの目印、釘などによる衣服掛けなどは設置禁止です。持ち込み自体紛失などで危険物になります。

公園遊具・人的ハザードチェックリスト

令和 年 月 日

公園名	公園	実施年月日	令和 年 月 日()
所属団体名		実施者氏名	
責任者氏名			

遊具のチェック (○・△・×の表記を △・×の時はコメント欄に記載してください。)

診断区分	人的ハザード診断 (遊び方について)									
NO.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
チェック内容 遊具設備	乳・幼児に適切な監督がなされているか	利用対象年齢に合わない遊具で遊んでいないか	素足や遊びに不適さない服装で遊んでいないか	かばん、水筒などを身につけて遊んでないか	遊具に対し、子どもが密集しすぎているか	ブランコをいつもより大きく揺らして遊んでいないか	ジャングルジム等いつも以上に高い所に登っていないか	危険性を理解した上で遊具から飛び降りなどして遊んでいないか	揺れ遊具の二人乗りなど遊具の制限を無視して遊んでいないか	
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										

コメント記載 (気付いた事など)

公園遊具・人的ハザードチェックリスト

遊具の点検におけるハザード各項目における視点は次の通りです。

遊具のチェック(○・△・×の表記 △・×の時はコメント欄に記載してください)

診断区分	人的ハザード診断(遊び方について)									
NO.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
遊具設備 チェック内容	乳・幼児に適切な監督がなされているか	利用対象年齢に合わない遊具で遊んでいないか	素足や遊びに適さない服装で遊んでいないか	かばん、水筒などを身に付けて遊んでいないか	遊具に対し、子どもが密集しすぎていないか	ブランコをいつもより大きく揺らして遊んでいないか	ジャングルジム等いつも以上に高い所に登っていないか	危険性を理解した上で遊具から飛び降りなどしていないか	揺れ遊具の二人乗りなど遊具の制限を無視して遊んでいないか	

- 乳児(3歳以下)は保護者と共に利用してください。3歳から6歳までの幼児が遊具で遊ぶ場合は、保護者・保護責任者の監視が必要です。「目が届く位置」「声の届く位置」あるいは「手の届く位置」で監視、見守りをしてください。
- 遊具には**3-6**、**6-12**と年齢表示シールが貼り付けてあります。シールを参考に遊ばせてください。使用年齢に合わない遊具で遊ぶ場合は、保護者と一緒にまたは、すぐ手の届く位置で見守ってください。
- 洋服やパーカーの頭巾等、マフラー、水筒のひもなど引っかかる恐れのある服装及び前開きのままの服装で遊んでいないかをチェックします。また、靴は足に合った脱げにくいサイズの物を履き、テープはきちんと止め紐はしっかり結びます。
- カバン、水筒などを身に付けて遊ぶと隙間に引っかかったり、紐が首に巻き付いたり危険です。
- 遊具の密集利用は行動を制限されることから、特にすべり台、ジャングルジム、ブランコなどは注意が必要。順番を守り、人を押しのけたり突き飛ばしたりしようにチェックします。また、複合遊具は追いかっこなどスピード、密集ともに危険です。
- ブランコは大きく高く揺らすと鎖のたわみが出来やすく高所からの落下等危険です。安全境界柵の中での遊び、順番待ち、駆け抜けなどは思わぬ事故を起こします。また、安全境界柵の上を歩いてはいけません。鉄棒代わりの利用も禁止です。
- ジャングルジムの最上段は落下防止の手すり目的です。この上に登って遊んではいけません。危険と判断できる高さからの飛び降りは、本人も周囲の人にも思わぬ事故を誘発します。高所からの飛び降りが無いかチェックします。スプリング遊具・ブランコ・すべり台踊り場、滑走など複数での利用は危険です。一人ずつ順番に利用します。